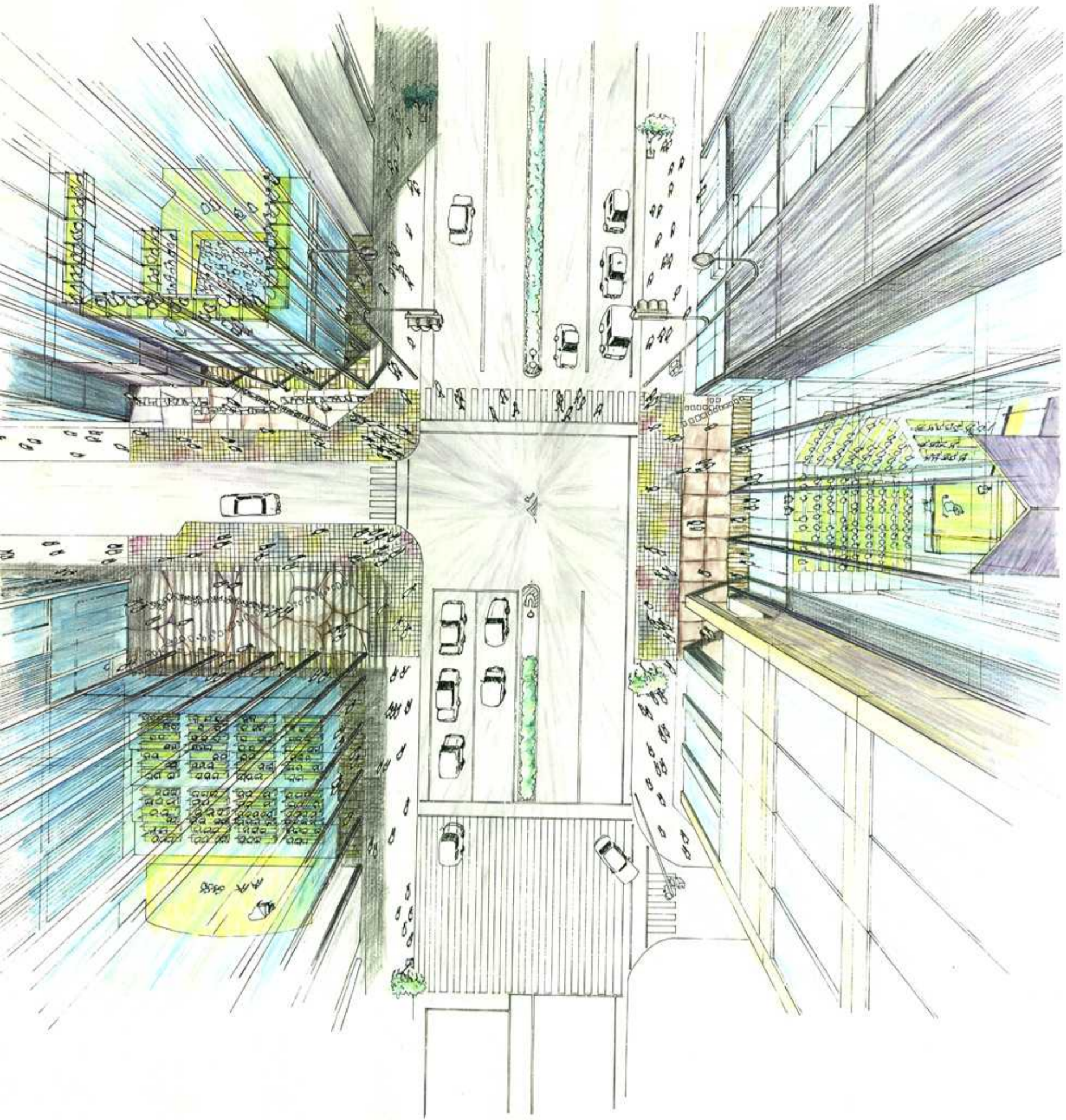


伝統文化交差点



谷村 真理

国によって文化は様々

今の世の中、国際化

異文化交流、大流行

自国の文化を知らない現実

異文化の前に、まず自国の文化

こんな時代に私の提案

「伝統文化交差点」

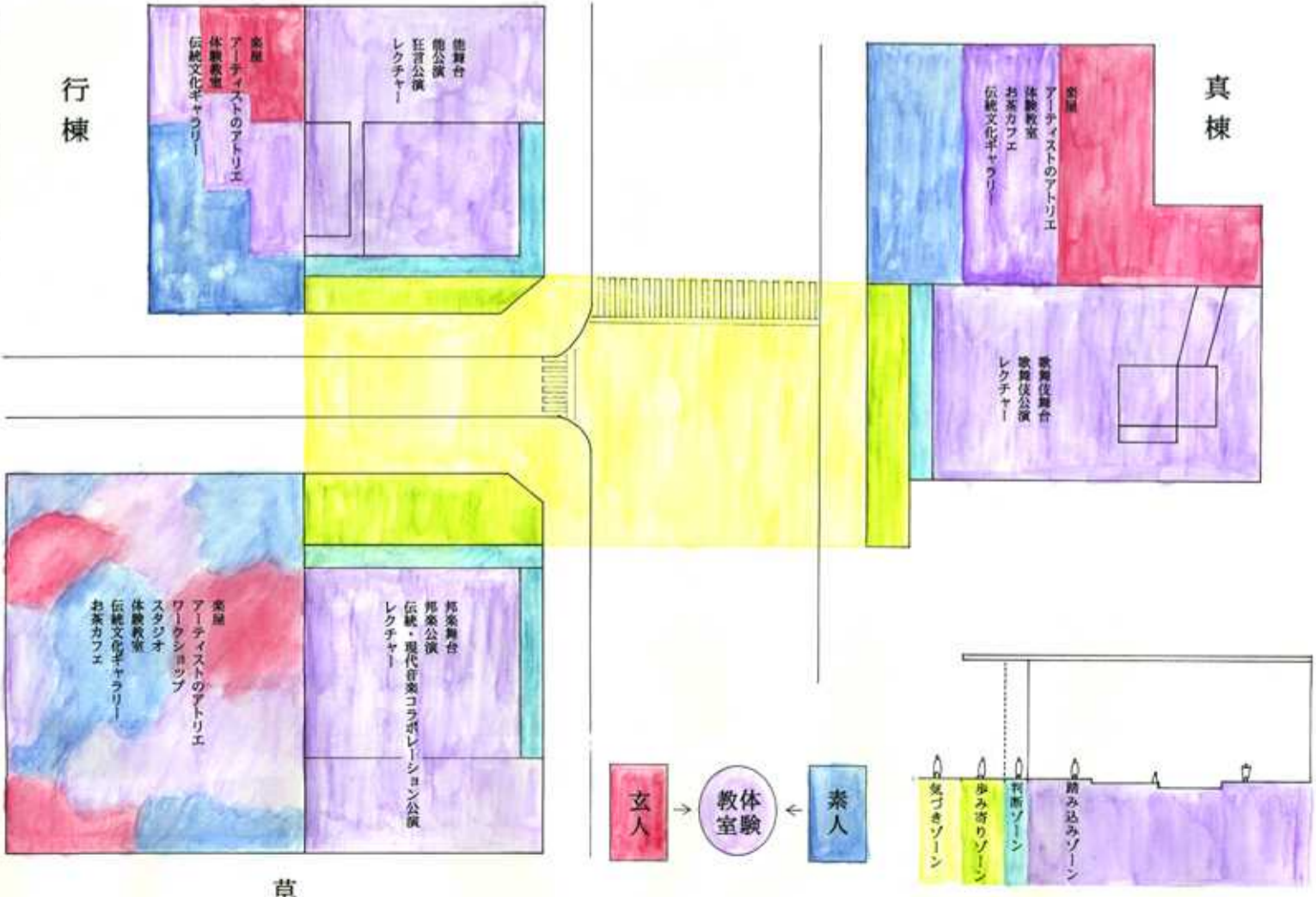




名古屋市中区栄、白川通大津交差点、意識して施設に行こうとしなくても、街を歩いていたら、自然にその空間に居た、となるように、交差点を囲むように施設を配置。交差点で立ち止まれば、高層ビルの建ち並ぶ中ではっきりあいた低層空間、交差点をはさんだ伝統文化の広場に自分がいることに気付く。



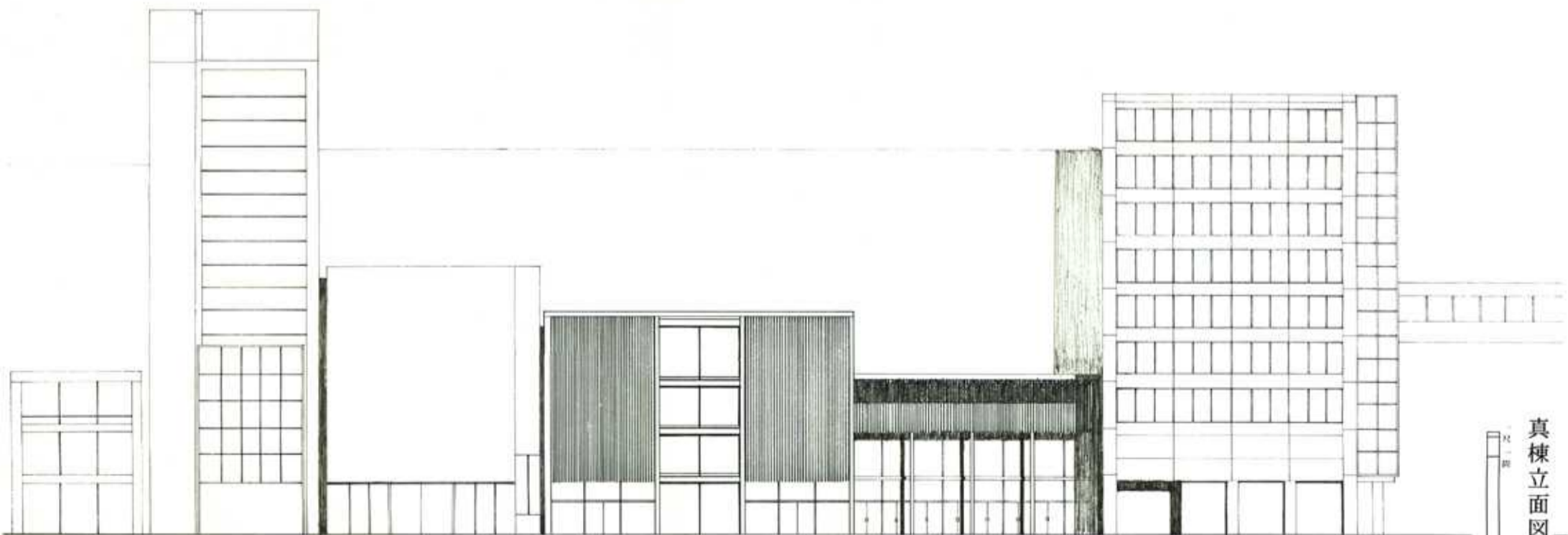
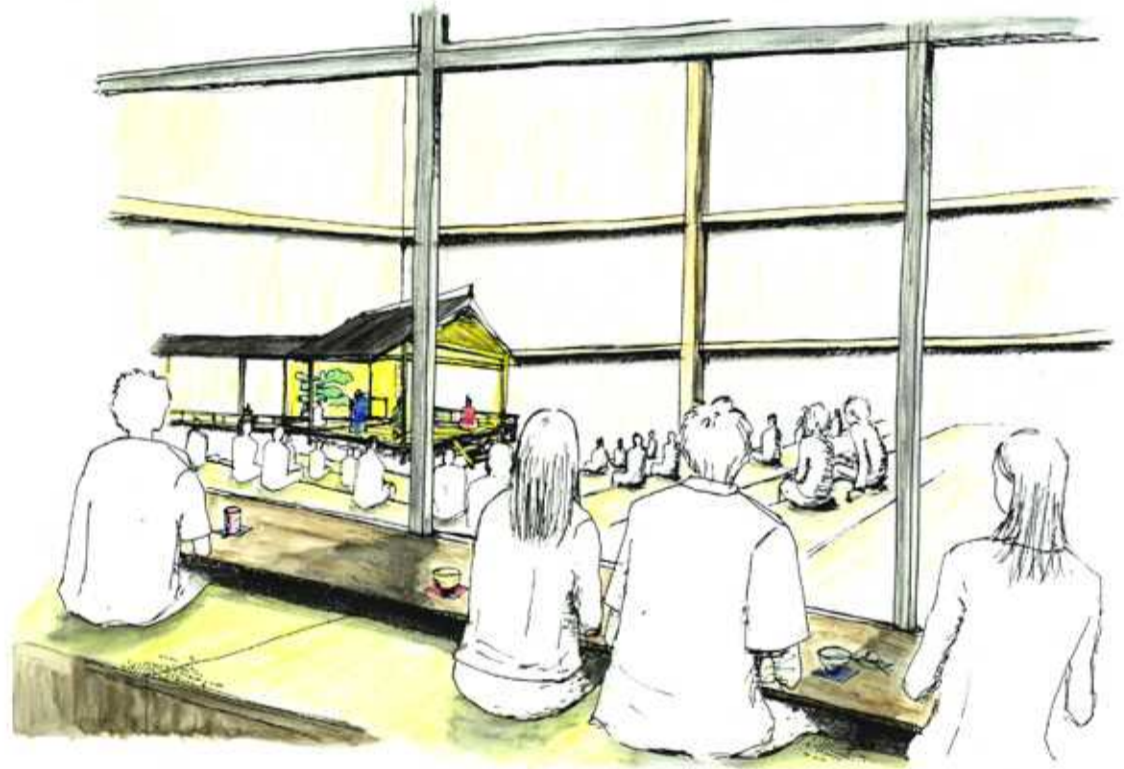
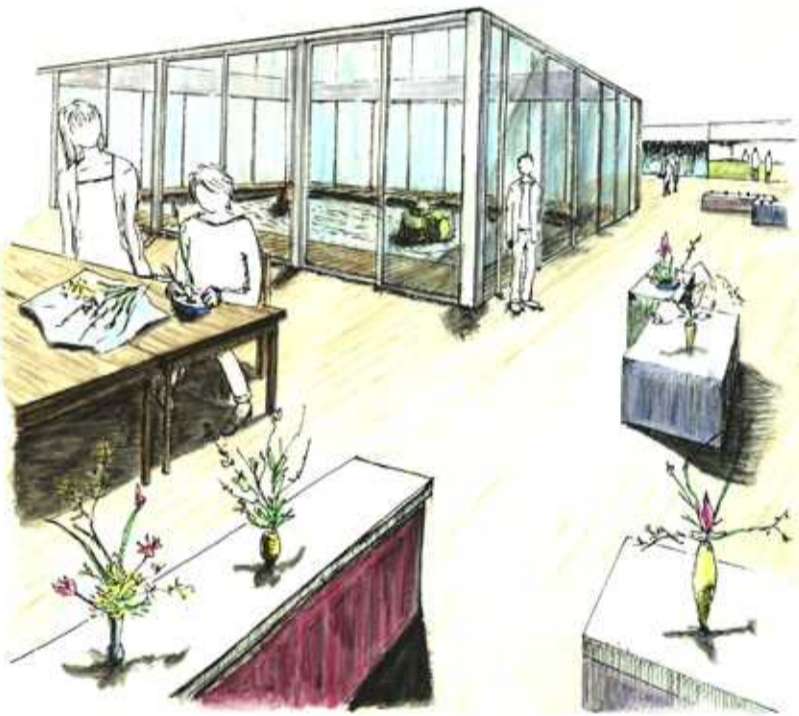
ギャラリー施設プログラム



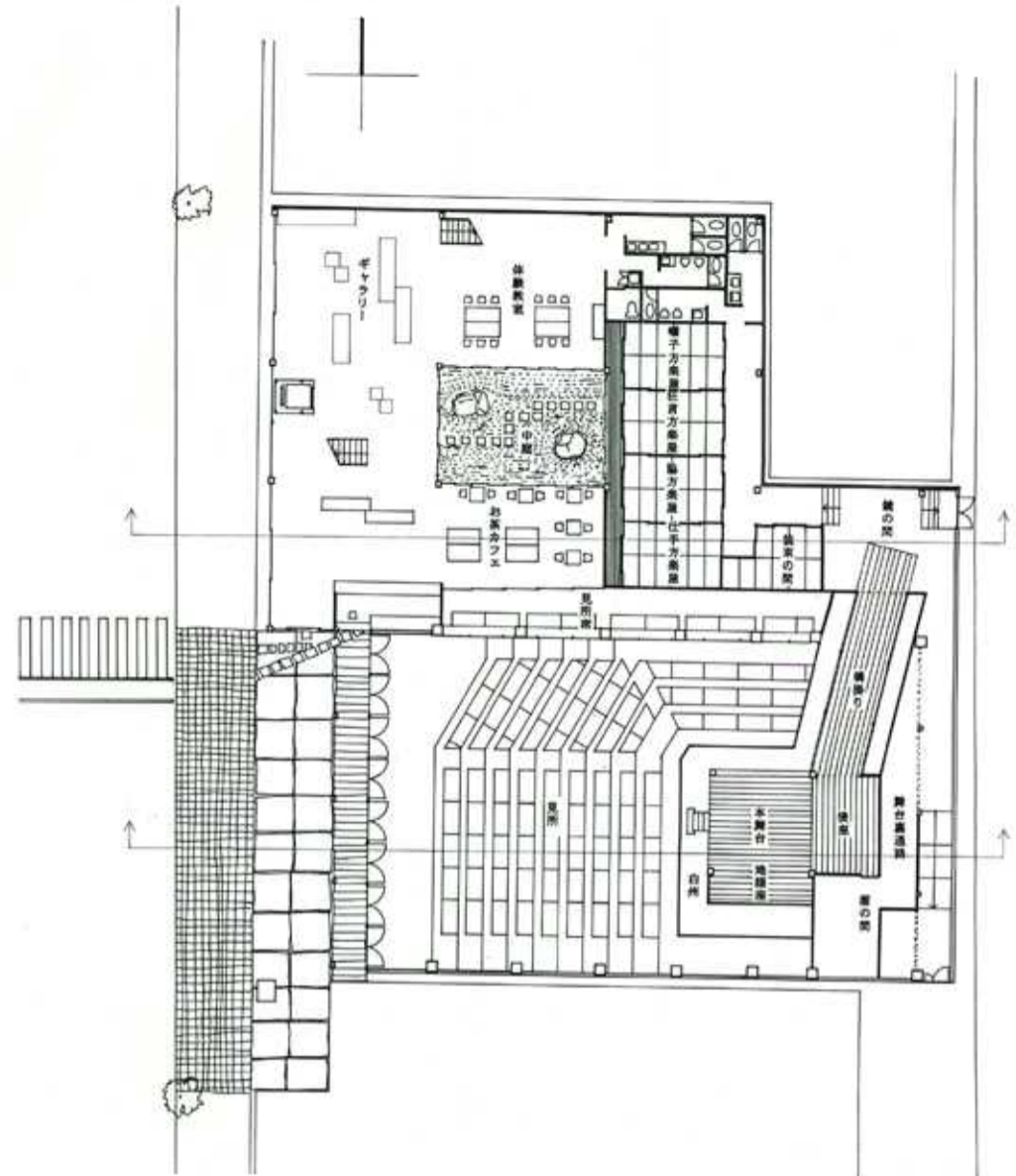
日本には、真・行・草の三様式がある。真・行・草、三態の様式概念をデザイン原理とするこ
とによって、ひとたび生み出された様式を消滅させることなく存続させる。ギャラリーを真棟、
行棟、草棟の三棟に分け、展示品もそれぞれ所属する棟に分けて展示する。

真

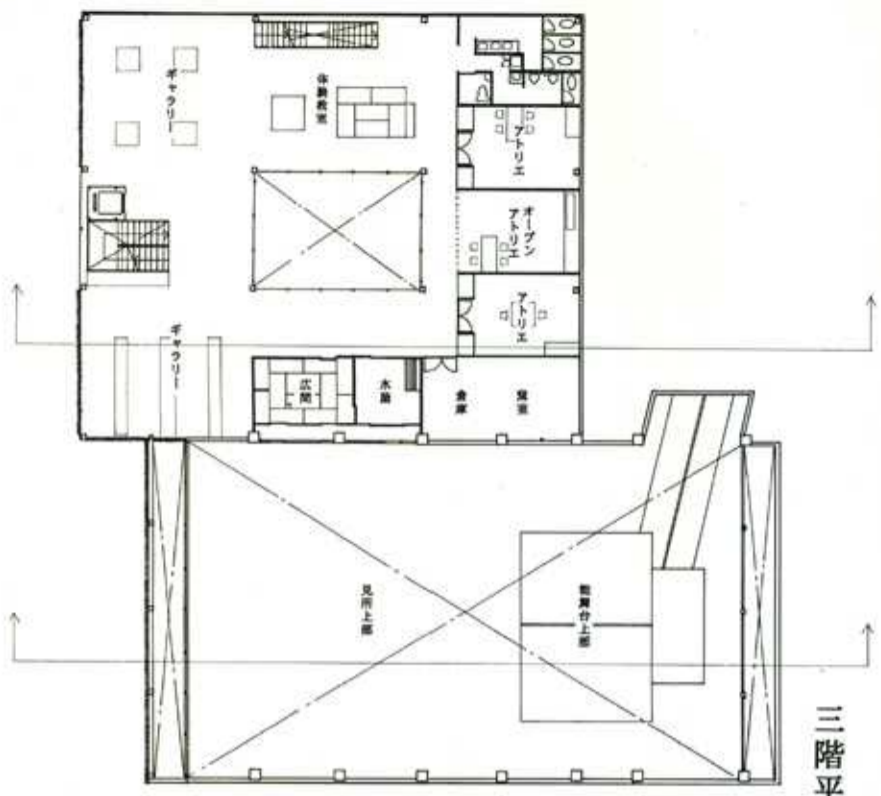
真。格式高く、整ったもの。
直線の正確さと確実さを重んじ、
相称的な構築性を人工的に形成していく。



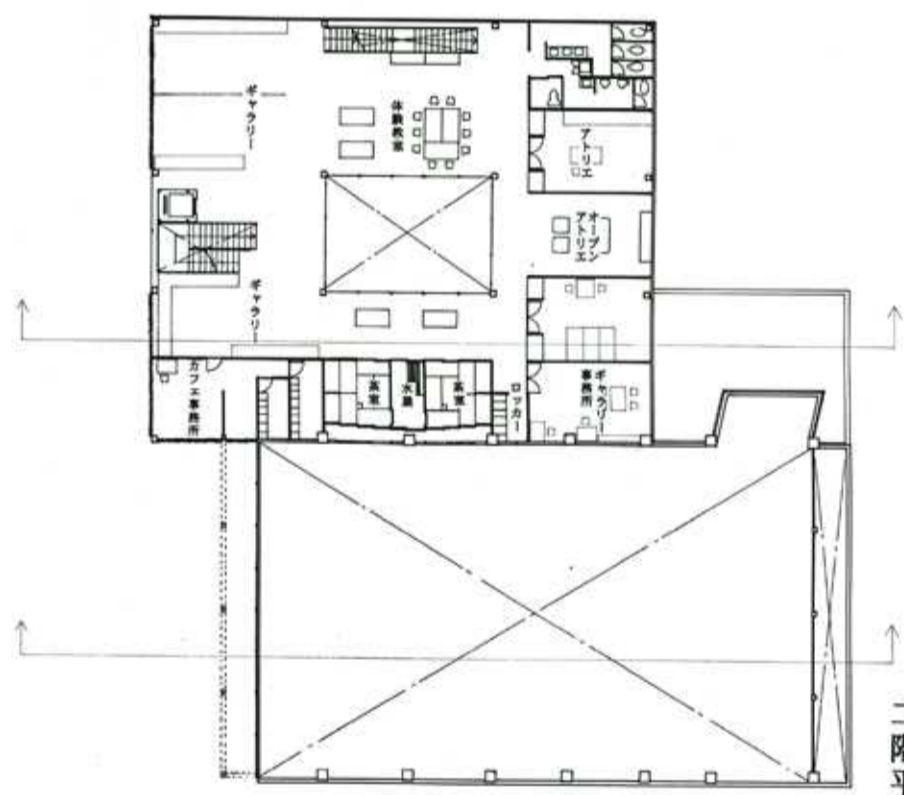
真棟一階平面図 二百分の一



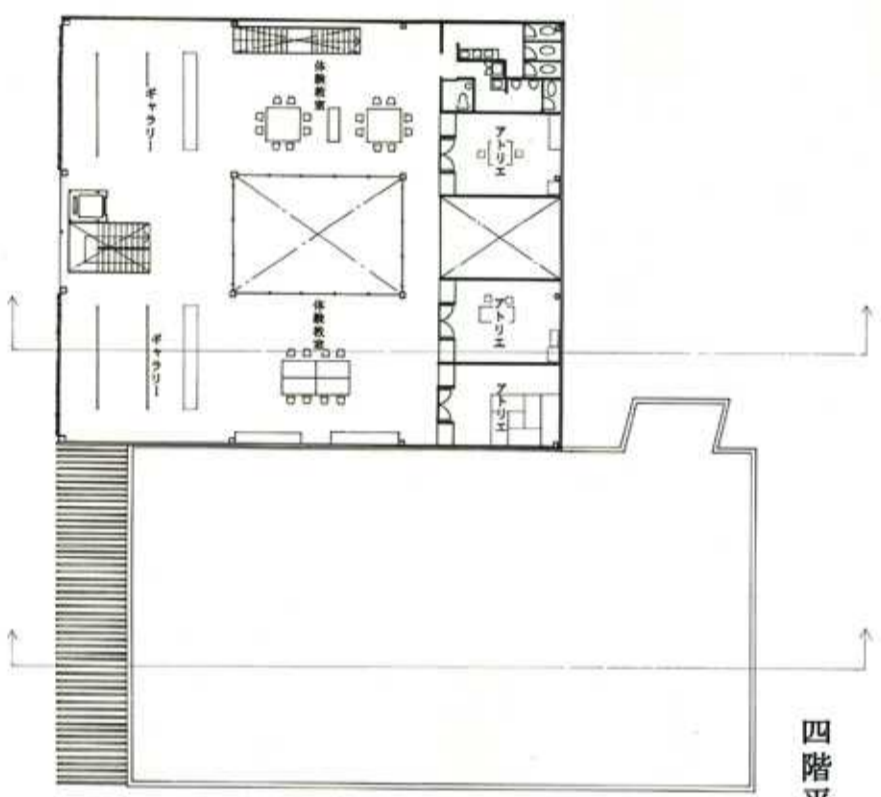
三階平面図



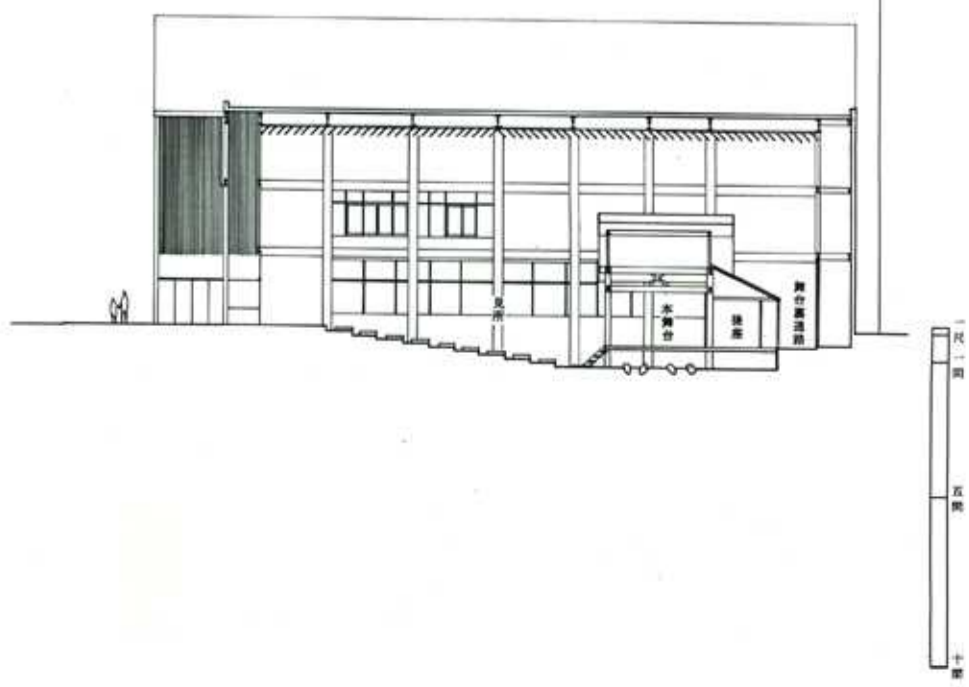
二階平面図



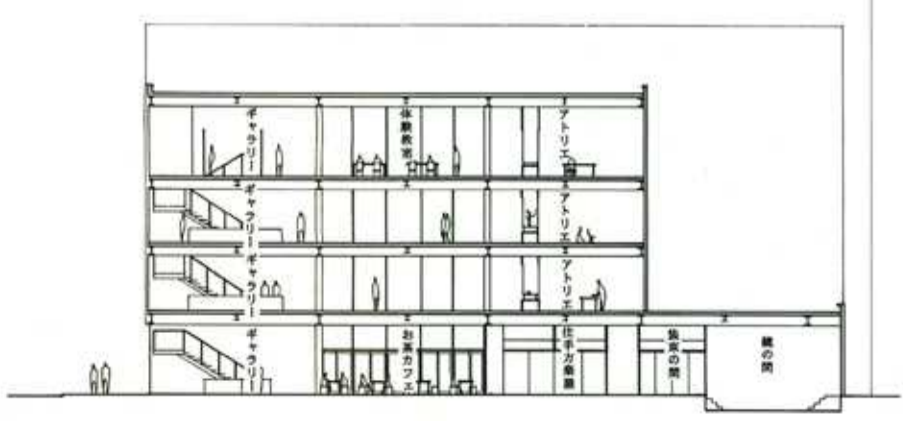
四階平面図



真棟舞台断面図 二百分の一

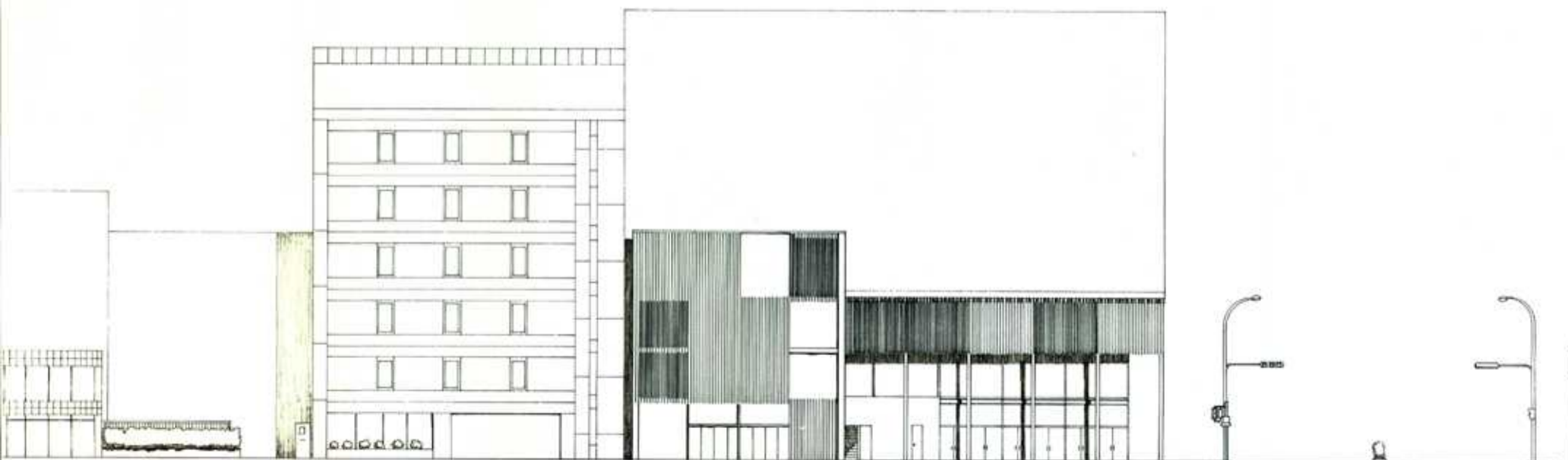
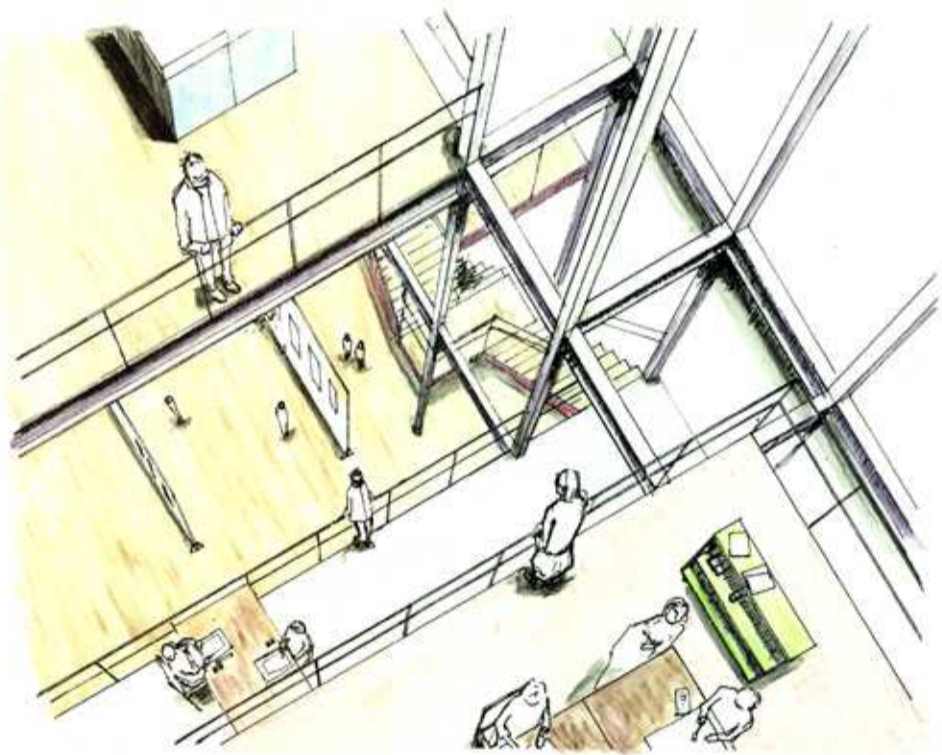


真棟ギャラリー断面図 二百分の一



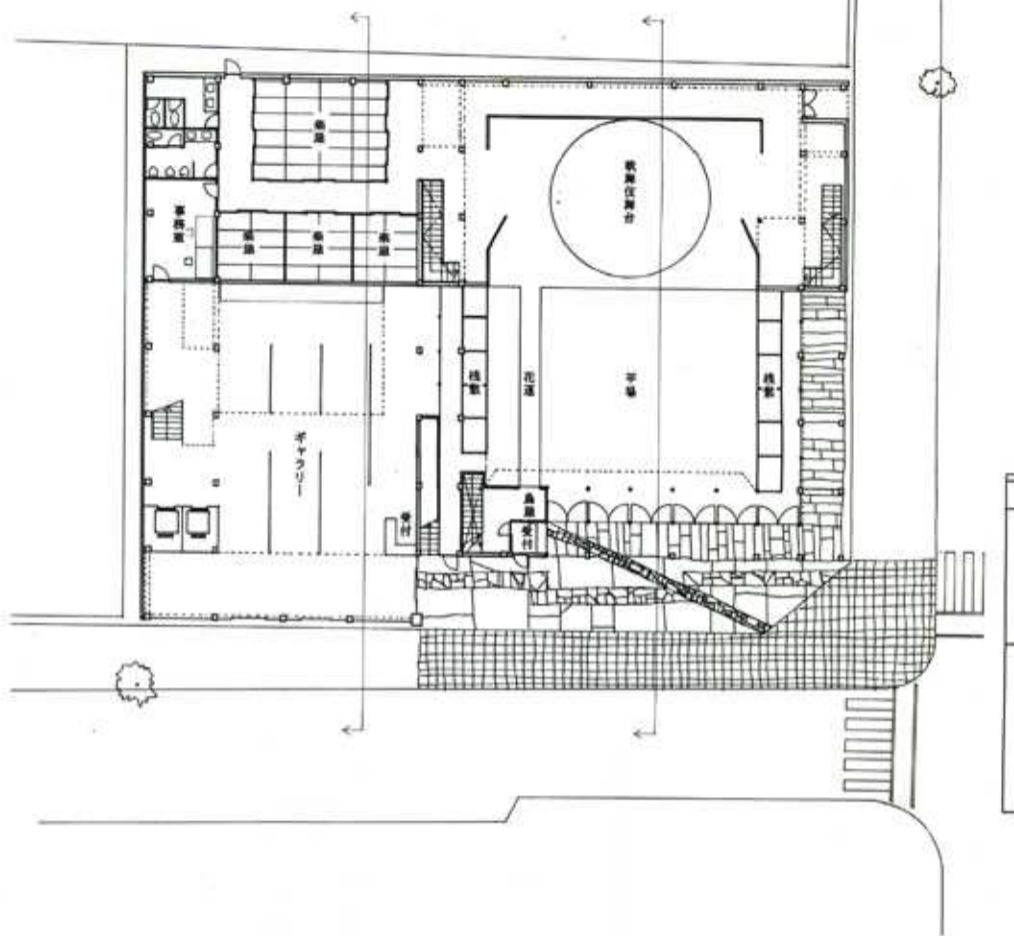
行

行。真・草の間。
真が草に変貌するための過程。
真よりも堅苦しくなく、砕けた感じ。

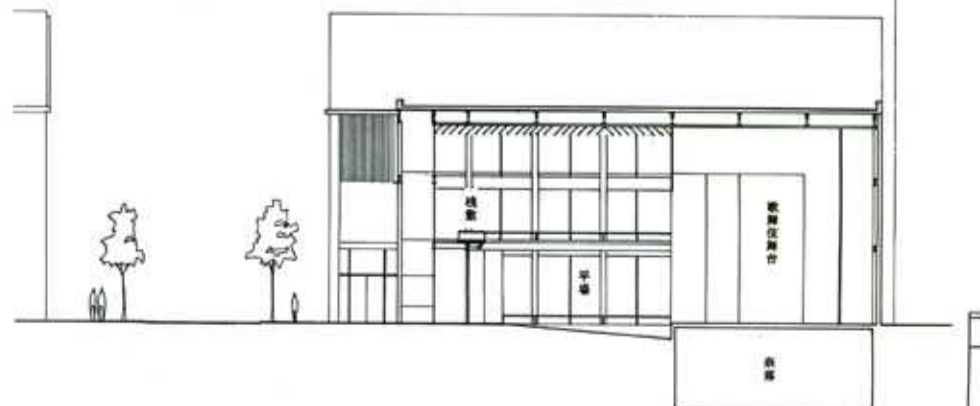


行棟立面図 二百分の一

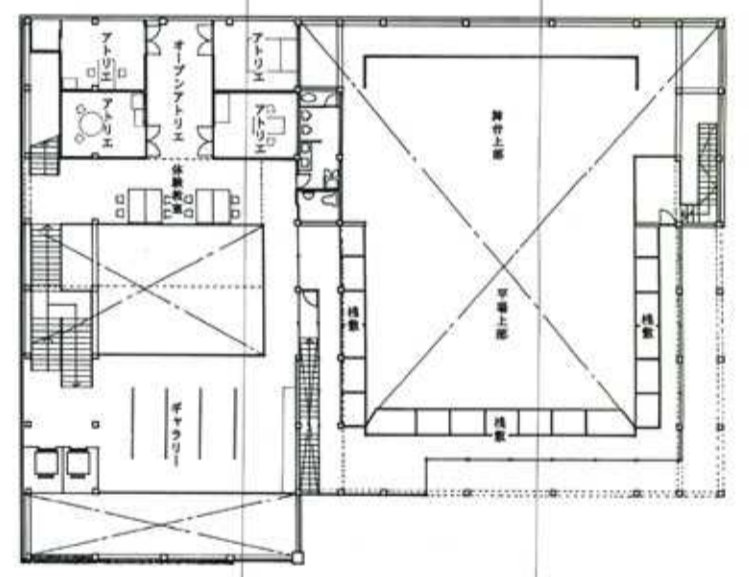
行棟一階平面図 二百分の一



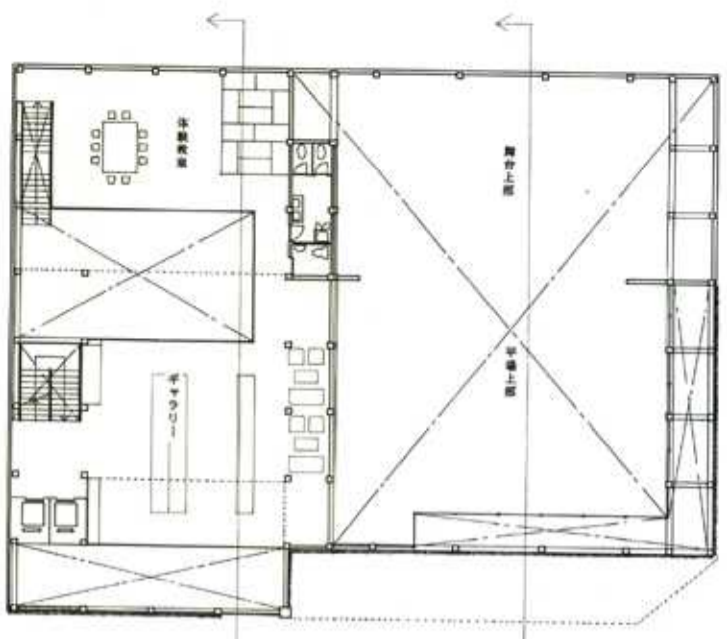
行棟舞台断面図 二百分の一



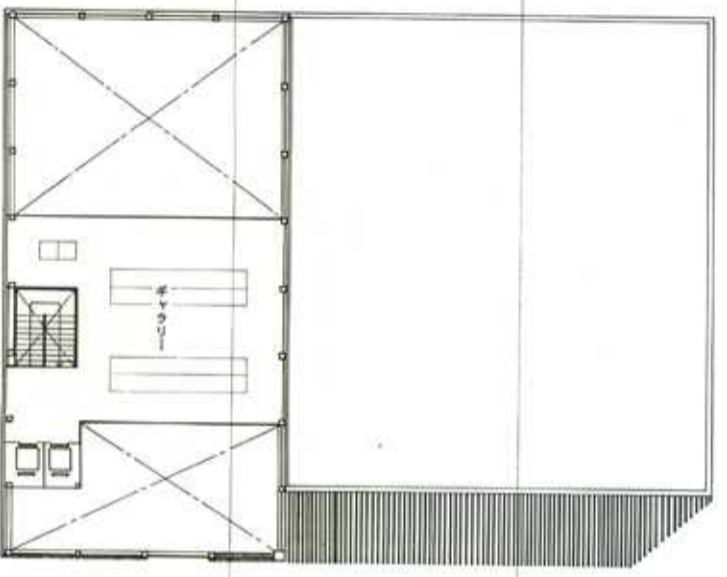
二階平面図



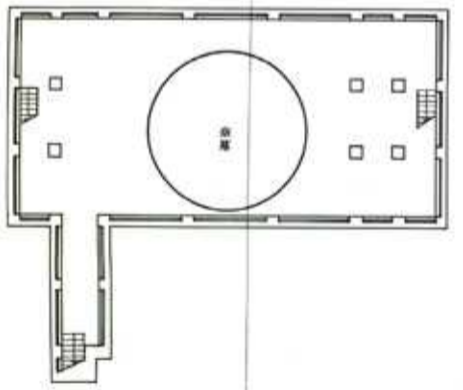
三階平面図



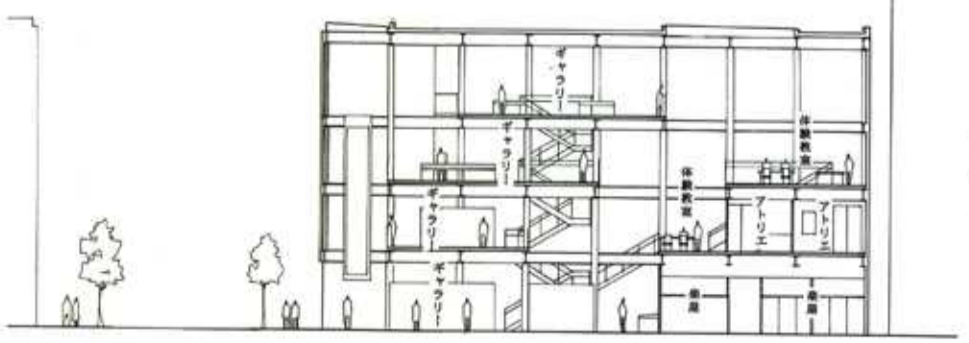
四階平面図



地下一階平面図

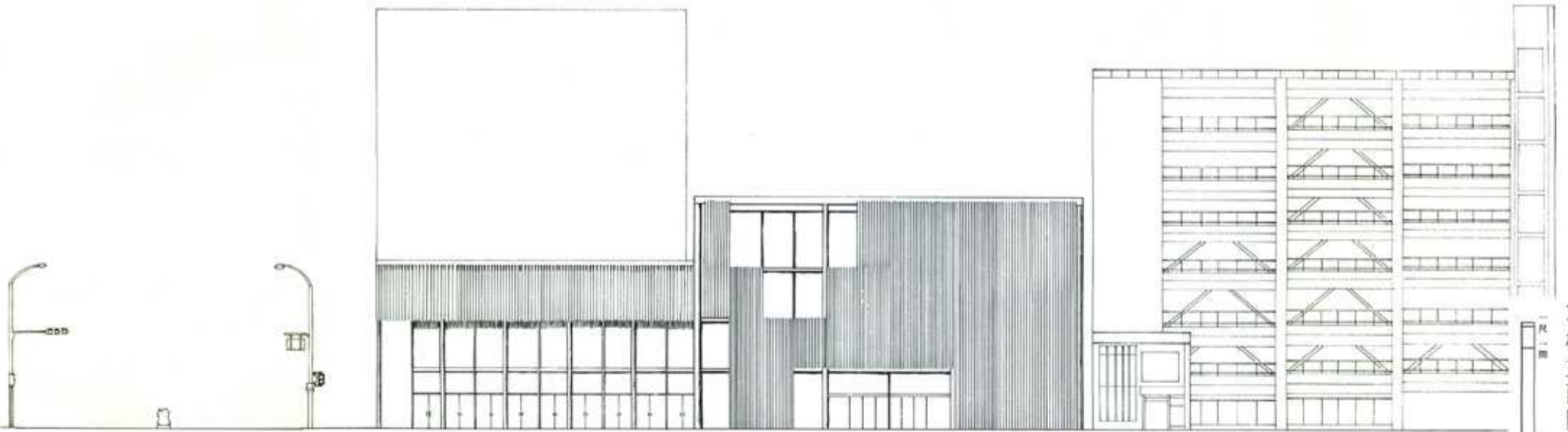


行棟ギャラリー断面図 二百分の一

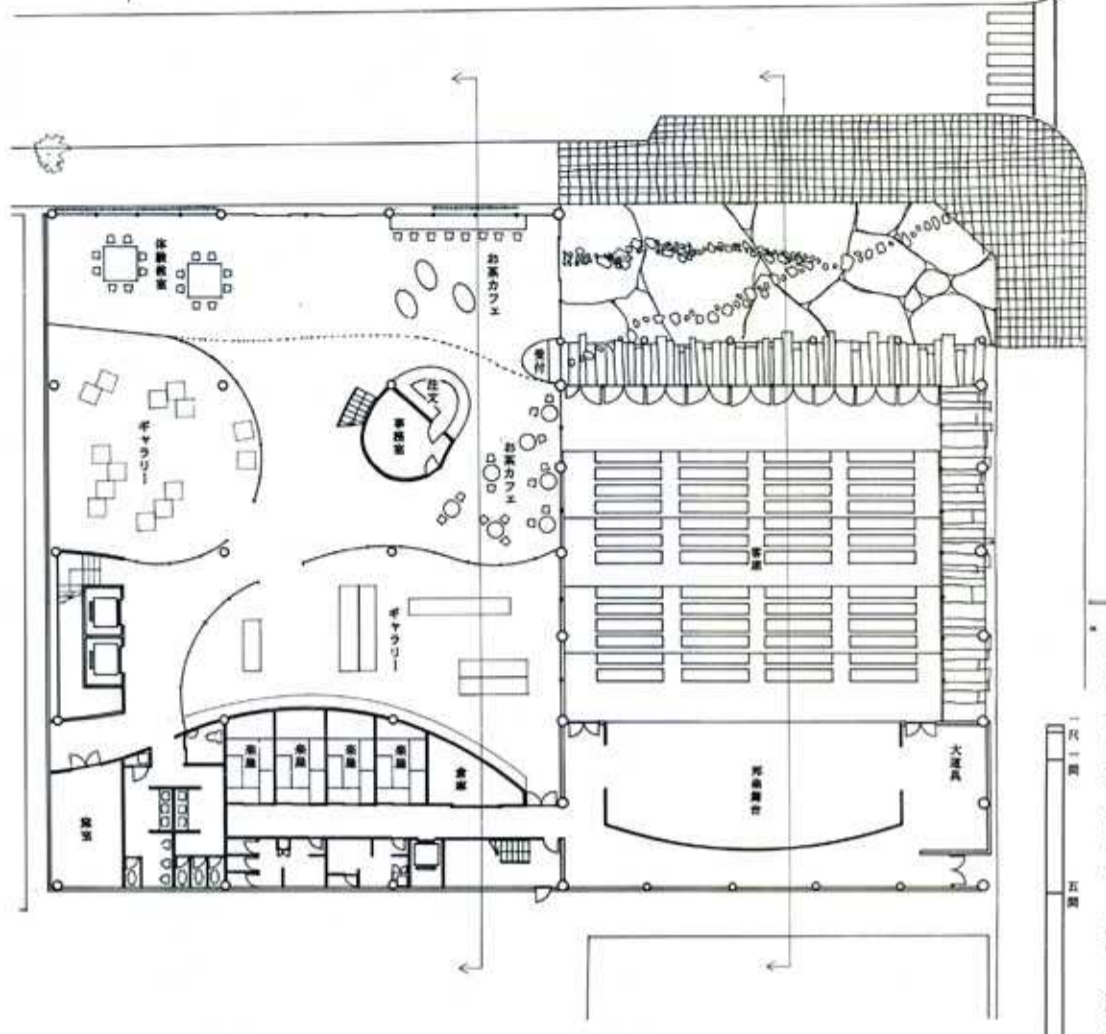


草

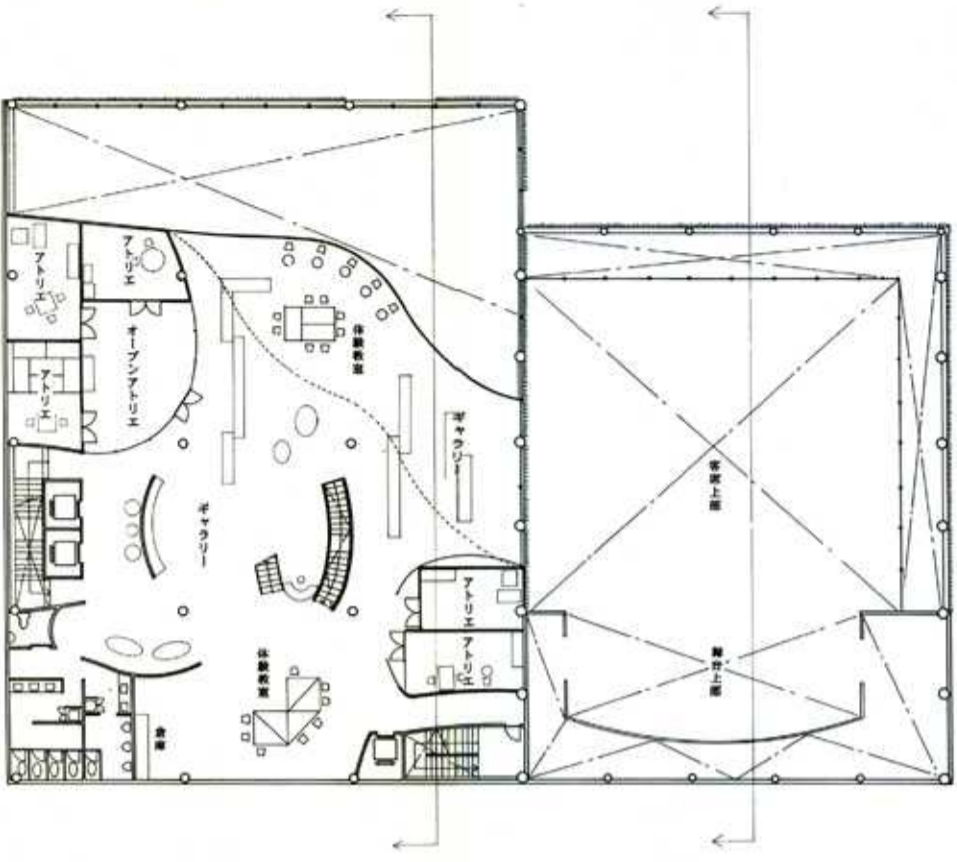
草、破格。真の対極。
非相称的な流動性、自然で自由な形に身を委ね、
曲線の曖昧さと変化を好む。



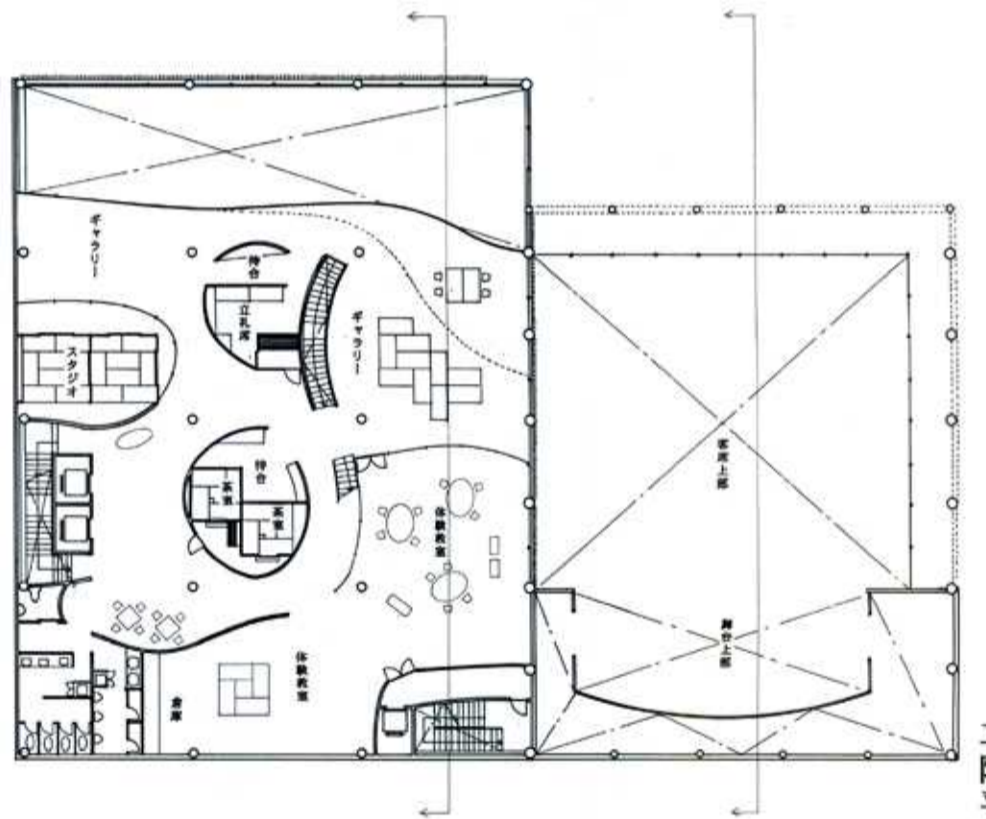
草棟一階平面図 二百分の一



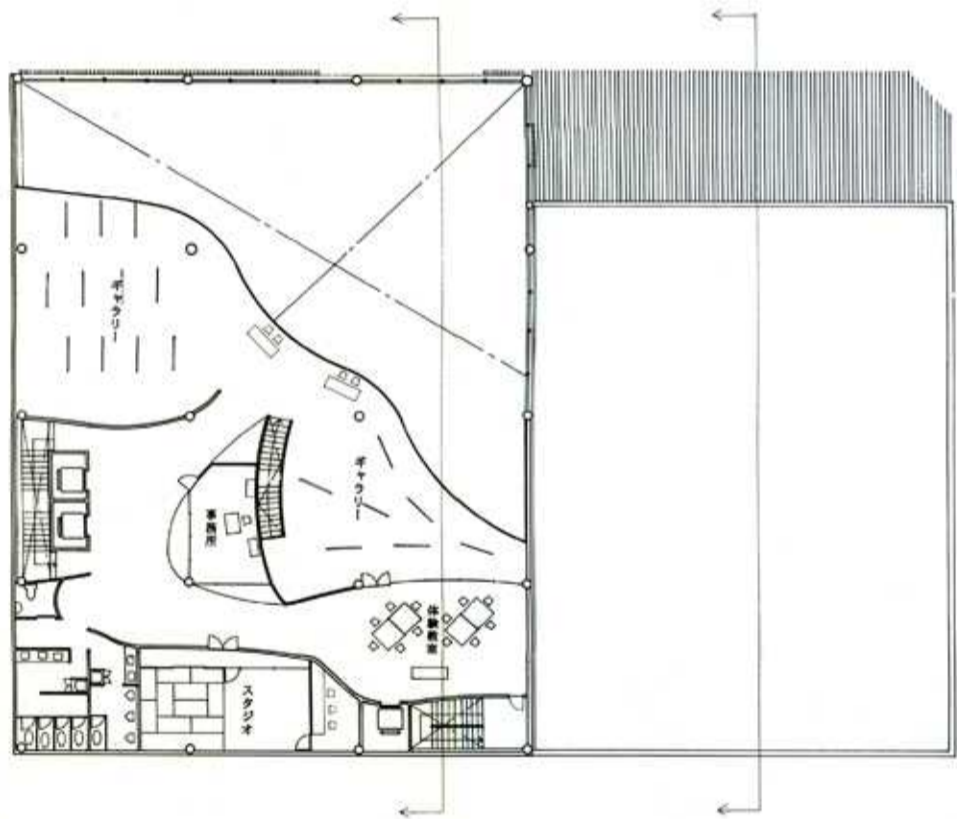
三階平面図



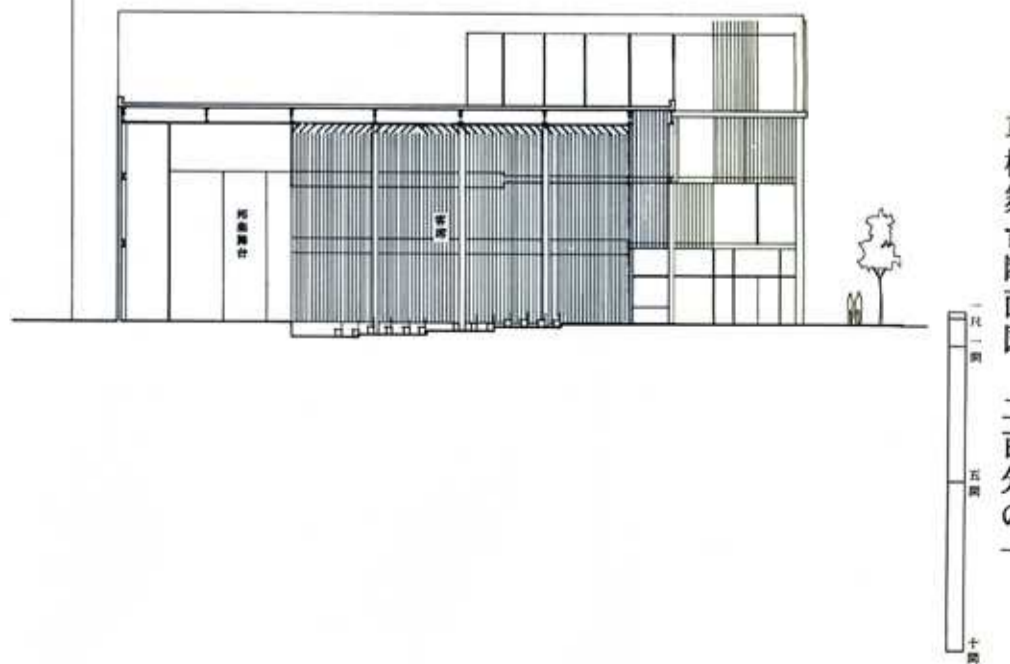
二階平面図



四階平面図



草棟舞台断面図 二百分の一



草棟ギャラリー断面図 二百分の一

